

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第469号
2021年
9月24日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面・教育のつどい 2021
・子育て応援カフェ



職場の願いに応える勧告を
～県人事委員会と交渉～

8月27日付で高教組は、県人事委員会に、給与水準の引き上げなどを求める要求書を提出し、9月8日には人事委員長との交渉を行いました。



冒頭、深田執行委員長から、賃金の改定見送り、2年連続の時金削減の人事院勧告(国)に対し、国民のいのちとくらしを守るため、非常事態のもとで奮闘する公務労働者の賃上げに対する期待に背き、生活や現場実態が反映されなかったことに抗議の意

「ホームエデュケーション」「ギャップイヤー」と言って、学校に行かない選択や、学校や職を休み、家族で1年間ヨットで世界一周なども容認されています。18歳になると国が保護者が出るので、親元から離れます。18歳以降は育士看護士など専門職を学ぶ専門学校、エグモントのようなフォルケハウスコレ、そして大学の学費も入学試験はなく、必要なのは高校卒の資格だけ。私学にも8割ほどの補助が出るので、授業料はほぼ無料。年齢や障害に関係なく、誰でもいつでも様々な道を選ぶ仕組みが整っています。

主張

9月11日に、教育全国署名静岡県スタート集会を行い、吉田恵美子さんを招いて「デンマークに学ぶ 教育を無償にする力」と題するお話を聞きました。

デンマークは、教育も医療も福祉も無料、「世界で最も幸福な国」と言われます。どうしたらそのような国をつくることができるのでしょうか。

多様な選択肢

吉田さんは特別支援学校を退職しデンマークの全寮制の成人学校フォルケハウスコレのひとつエグモントハウスコレに1年間留学しました。全寮制で学生200人のうち半分は障害者、自分のお金でヘルパーを雇い、ヘルパーと共に学び、共に生活します。

デンマークに学ぶ教育を無償にする力

教育を無償にする力

デンマークでは、6歳から15歳の小・中学校の義務教育には、テストも宿題もありません。先生が前に立って教えることもほとんどなく、グループで調べて考え、発表し合います。15歳以降は約3000といわれる多様な選択肢が用意されています。普通・工業・商業・高校、様々な文化や技術を学べます。

「ホムエデュケーション」「ギャップイヤー」と言って、学校に行かない選択や、学校や職を休み、家族で1年間ヨットで世界一周なども容認されています。18歳になると国が保護者が出るので、親元から離れます。18歳以降は育士看護士など専門職を学ぶ専門学校、エグモントのようなフォルケハウスコレ、そして大学の学費も入学試験はなく、必要なのは高校卒の資格だけ。私学にも8割ほどの補助が出るので、授業料はほぼ無料。年齢や障害に関係なく、誰でもいつでも様々な道を選ぶ仕組みが整っています。

民主主義を支えるために学ぶ

このような政策を選ぶことができるのは、「この国は自分たちが作っている、変えられる」という意識が根本にあるからです。「ビールを片手に政治を語る」など日常生活の中でも対話議論する場面がたくさんあり、若者の意識も高く、国会議員も平均30歳代です。



フォルケハウスコレ (大人が学ぶ全寮制学校)

感染対策に向けての緊急要請書提出

9月10日に県教委は「感染が確認された場合の対応について(通知)」を出しましたが、静岡高教組は、教育長あてに緊急要請書を提出しました。

学校の感染対策について次の対応を求めます。

(一部抜粋)

1. 休校、学級閉鎖、分散登校、少人数による授業の実施などを状況に応じて学校が判断できるように、感染状況をふまえた感染防止対策を科学的知見とともに示すこと。

抗原定性検査 簡易キットについて

感染者の早期発見、隔離、感染拡大予防のためには、本来、専門的な機器での定期的なPCR検査が必要ですが、発熱・咳など風邪症状があるなら出勤・登校させず、すぐに医療機関での検査をうけるべきです。出勤後、登校後に具合が悪くなったら、すぐに帰宅して医療機関で検査を受けることが必要です。学校で仮の簡易検査をやる必要など、どこにもありません。

自発的に民間の検査センターなどでPCR検査を受けた教職員に対して、代金を補償、補助すること。

希望する教職員へのワクチン接種をすみやかにすすめること。

民間での有料の職域接種を利用した教職員

高教組見解

9月になるとあの苦しい思いがよみがえります。6年前の今頃、「平和安全法制(戦争法)」法案をめぐり、静岡高教組も全国の仲間と連帯してたたかっていました。平和憲法の下で他国の戦争に加担する「集団的自衛権」を認めてはならない、と。国会前の大きなデモから、街角でのスタンディング、田舎の数十人のデモまで、時間が許さざり参加しました。

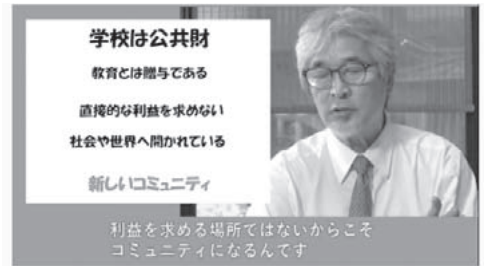
「こんな大衆運動にとりくんだのは人生初、本気で「戦争法」を止める気でした。そして、9月19日未明、参議院での強行採決で、「戦争法」は成立。憲法を変えることなく、日本は集団的自衛権を行使できるようになったんです。生まれて初めての悔し涙も流れました。

「無駄なたたかいはないよ」と慰めてくれました。さて、6年後の今、自衛隊は、未だに戦争によつて人も殺さず、殺されてもいません。かれこれもう76年も。先進国の中で、そんな国が唯一存在することは、現代史の奇跡です。あの国民的運動があったからこそ、今も参戦には歯止めがかかっているのでしょう。そう、あたたかいは無駄ではなかったんです。デモで社会は変えられないのに、なぜデモに行くのか?ある人が答えました。デモで社会は変えられない、という人間に変えられないためにデモに行く、と。自分が自分であり続けるためだけに、たたかいは続きます。ただ、がんばらないようにがんばって、いい加減がよい加減で。我々は微力だが無力ではない!

視座

9月になるとあの苦しい思いがよみがえります。6年前の今頃、「平和安全法制(戦争法)」法案をめぐり、静岡高教組も全国の仲間と連帯してたたかっていました。平和憲法の下で他国の戦争に加担する「集団的自衛権」を認めてはならない、と。国会前の大きなデモから、街角でのスタンディング、田舎の数十人のデモまで、時間が許さざり参加しました。

みんなで21世紀の未来をひらく
教育のつどい 教育研究全国集会2021
「教育の原点とは何か」 山極 壽一さん 講演会



8月19日から22日にかけて、教育のつどいが開かれ、全体会で山極壽一さん(総合地球環境学研究所所長・元京都大学総長)の「教育の原点とは何か」と題する講演がありました。とても興味深い内容だったのでお話しを紹介します。

隔を短くするために乳歯のまま離乳させられる。ゴリラは4歳くらいまで母親に抱かれっぱなしなので泣かないが、人の赤ちゃんは体重が重いし離乳が早いので母も抱き続けることができず、置いたりほかの人に預けたりするからよく泣く。泣き声を聞いて、周囲が手を差し伸べ、やさしく音楽的に語りかける。そこから子守歌が生まれる。

人の赤ちゃんは、脳の成長を優先させるためのエネルギーを体脂肪に蓄えるためにゴリラの2倍の体重で生まれ、出産間

「早い離乳」と共同保育

この両時期は生物学的に弱い時期なので死亡率も高い。そこで、親以外の人が寄つてたかつて育てるための共同体をつくる。それを大きくしたと考えられる。それが「教育」の原点。12歳くらいで脳が成長

「思春期スパート」

この両時期は生物学的に弱い時期なので死亡率も高い。そこで、親以外の人が寄つてたかつて育てるための共同体をつくる。それを大きくしたと考えられる。それが「教育」の原点。12歳くらいで脳が成長

第7回子育て応援カフェ

毎年2回行ってきた育休復帰応援カフェを『子育て応援カフェ』と改め、第7回を7月31日に行いました。今回もオンラインでの開催でしたが11名が参加してくれました。所属も立場も様々ですが、悩んでいること、知りたいこと、不安に思っていることは共通している。権利について学び、悩みや不安を情報交換できて、内容の濃い会になりました。

休はどう取つたらいいの? など金銭面への疑問、復帰後の仕事と育児家事との両立のため、特に朝と帰宅後の時間の使い方、保育園探しと朝と夕方の送り迎えの苦労と工夫が話題になりました。これらは毎回テーマに挙がり、出産子育てを控えている方、産育休中の方、みんなが気になり、不安に思っていることなのだと思われました。

お金に関わることは、家族の生活に関わるだけなく、自分やパートナーの働き方の選択にも関わることです。私自身も含め、しっかり理

解していくことが必要だと感じました。権利について知った上でも、「部分休業や短時間勤務を希望しているけれど取得が難しい」「給与が減額されるなら取得を悩む」という迷いも出ました。また、現在妊娠中で仕事をしたい参加者の方からは、代替がつかないことへの不安や申し訳なさを感じているという話もあり、今ある制度が本当に使いやすいか、私たちの働き方を支えてくれるものになっているのだろうかという点も疑問に感じました。

この夏に行われた女性部のアンケートでも妊娠子育てに関する権利については見直すべき点(富士特支 加藤奈央)

共感力が支える共同体(コモンズ)

霊長類は集団が大きいほど記憶する必要が生じて脳が大きくなる。ゴリラの3倍ある人の脳は、共同した経験があり顔が思い浮かぶ範囲150人程度を記憶できるサイズ。人には白目があるので、対面して目の動きや表情から気持ちを読み、共感しあい信頼関係をつくる。それが共同体(コモンズ)となる。

言語力優先の功罪

言葉は、見えないものを共有し、創造することができ、優先しすぎ、慣れてしまうと共感力が置き去りになり、気持ちや態度と裏腹な言葉を使うようになる。

「シェアリング・コモンズ」

コロナ禍でオンラインでつながることも可能になったが一方で、身体を使った、五感を使った、地域の風土に合った豊かな活動が根本に必要なことが明らかになった。

サル化する人間

現代の社会は、共感ではなく個人の利益や効率を優先し、強弱優劣のルールに頼って格差を容認し、利益を侵害する者を排除し閉鎖的な集団をつくるサル的な社会になりつつある。安全は機械的に作れるが、安心は人との信頼関係にある。しかし最近では、技術や「制度による秩序」に頼るようになってしまっている。

共感力を育てるために自然の中で活動すること

学校は、個人の利益や見返りを求めず社会や世界に開かれている公共財である。だからこそ言葉ではなく、共感力を育てたい。そのためには自然の中で活動することが大事。予兆できないものに会い、その時々で判断し対処することで人は成長する。知識ではなく、共感力を育くことを身に付ける。有し、交流し合い、自分で問いを立てる能力を育きたい。

教育フォーラムD

多様性って何?

「ジェンダー平等を通して考える」

一盛真先生の基調講演「多様性における『特権性』/『交差性』/『ジェンダー問題を通して考える』」では、性の多様性の尊重、可視化の重要性について話されました。日本では必ずしも諸外国に比べ性的マイノリティの人権が守られていないとはいえず、その理解を促進するための法制度の整備が急務であると指摘されました。

他方、多国籍企業においてはダイバーシティ&インクルージョンの取組が評価されています。しかし、同時に性の多様性を商品化する傾向がみられることには、注意を払う必要があるようです。LGBTQ関連の商品サービス開発によって得られる新たな付加価値、多様性に配慮しているかのようなイメージ戦略も多数派(マジョリティ)の思惑によってつくられてきたものなのかもしれません。

人種、国籍、身分、性別、障害、学歴、財力、今でも差別は様々な要因で重層的に交差しています。同じ男性でも人種によって差別があったり、女性も障害があるとならば権利が制限されたり。

一方、特権を持つ側も、自らをマジョリティだと思ふことで、差別される側の辛さや怒りを理解したり、対抗する力を持つことができません。差別の

構造から解放された「本当の自分」を描けず疎外されていることになかなか気づけません。特権を手放そうとはしない男性と抑圧されながらも対抗してきた女性や性的マイノリティ。ジェンダー平等教育により多様な性のあり方を並列的に扱うことにより、マジョリティの特権性と脆弱性が可視化できるはず。したがって私たちは、絶えずマイノリティが排除され、マジョリティの特権が温存され続ける様々な差別的「交差性」という矛盾に向き合わねばなりません。

堀川修平先生の「いまこそ『性の多様性』の視点を『フツー』に?」では、最新の性の多様性に関する知識と理論的な裏付けがわかりやすく説明されました。すべての人が大切にされる社会の実現をめざすために、性的マイノリティ当事者の問題としてではなく、「フツー」であること、見えていないことに目を向けるべきであるという問題提起。それは、すべての人に共通する生きにくさの原因、ジェンダーバイアスを取り除くことにつながります。平等な社会を実現するためには人権と効率を天秤にかけないことが大切。この結論には強い共感を覚えました。

小森淳子先生の「女性障害者の性と生」では社会的階層の底辺に置かれていた女性障害者の実態が報告されました。自立ばかりか人格すら認められないために、自己肯定感が低く、無力感を抱えながら生きざるを得ず、性暴力にあつても被害を訴えることもできず、泣き寝入りせざるを得ない現実。このような理不尽な社会の在り方に自らが声を挙げることで広く知ってもらい、変えてゆきたい。その決意が述べられると、画面越しに参加者からの拍手が鳴り響きました。

太田啓子先生の「性差別をなくすために子どもに何を伝えられるか?」では、「男らしさ」の問題点をユーモラスにまとめた著書「これからの男の子たちへ」を引用しながら解説されました。DVモラハラ夫は妻と対等の関係を嫌い、上位に立とうとします。そして、この男らしさの呪いに依存する女性が不幸の連鎖を作ってしまうという点です。子どもには「男らしさ」から解放されることが生きやすさにつながることを伝えたい、という意見には、男性読者からの反響が予想以上に多かったといえます。「有害な男らしさ」がいかに根深いものかを裏付けています。今回、多角的な視点で性の多様性について議論できたことはとても意義深く、これからの教育現場へ涵養していくことを期待します。(県立高教組 小谷しずく)